

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー : 1 x 2 x 3 x 4 = サステイナブル ILAS Seminar : 1x2x3x4=Sustainable			担当者所属 職名・氏名	フィールド科学教育センター 教授 徳地 直子		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	15 (15) 人	配当学年	1 回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	未定			使用言語	日本語
キーワード	森里海連環学 / レジリエンス / 生態系 / well-being						
【授業の概要・目的】							
<p>現在、都市に人口が集中し、その暮らしに自然を感じることは少なくなっています。そして、あらゆる生活の基盤は自然の創造物に依存しているのに、それらが産み出される現場（森や川や海）や過程との解離は大きくなっています。自然がないがしろにされ、地球温暖化や生物多様性の喪失など多くの環境問題が生じ、加えて、地域ごとに多様であった里山を囲んだ暮らしは画一化し、暮らしの中に存在した様々な多様性も失われています。これらの結果、生態系や暮らしは持続可能ではないのではないかと考えられています。</p> <p>セミナーでは自然の中でも、特に森に着目し、自然と暮らしのつながり、そして持続可能性について考えます。森林が私たちにもたらしてくれるもの、都市に住む人にとっての森林とは何か、どうしたら都市の人々も自然と触れ合えるのか、都市や工場などの人工的な森林や、試験地の里山などのフィールド実習を通じて、それぞれの特性、違いを感じるとともに科学的に評価します。そこから都市に暮らす私たちになぜ森林が必要なのか、自然とともにあることの意味を再検討し、自分なりの持続可能性について考えるきっかけにしたいと思います。自然や林業に興味がある人や健康やしあわせに興味がある人等、理系・文系問わず参加してください。</p>							
【到達目標】							
<p>森里海、さらには人と自然が連環することの意義について理解する。 地域の自然資源、文化的資源などの情報を収集、整理し、利活用から持続可能性を考えられるようになる。</p>							
【授業計画と内容】							
<p>各課題についてそれぞれ1から2回を予定している。また、週末を利用して上賀茂試験地や工場緑地でのフィールド実習を行う。授業回数は講義・実習・フィードバックを含め全15回とする。</p> <p>持続可能な社会への動き 持続可能性についての座学・意見交換 上賀茂試験地での里山実習（半日程度） 都市緑地・工場緑地での実習（半日程度） 人と森林の関係を考える（3回程度） 持続可能とはどういうことか・意見交換</p>							
ILASセミナー : 1 x 2 x 3 x 4 = サステイナブル(2)へ続く							

ILASセミナー : 1 x 2 x 3 x 4 = サステイナブル(2)

[履修要件]

同時に開講している森里海連環学系科目「森里海連環学I」ならびに「森里海連環学II」を受講することが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

実習ならびに各回でのディスカッションへの参加(50点)、毎回の小レポート・最終レポート(50点)などから総合的に判断する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)

森林立地学会『森のバランス』(東海大学出版会, 2012) ISBN:978-4-486-01933-6

山下 洋 編『森里海連環学』(京都大学学術出版会, 2011) ISBN:978-4-87698-581-4

(関連URL)

<https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/>(フィールド科学教育研究センターHP)

<http://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/kamigamo/>(上賀茂試験地HP)

[授業外学修(予習・復習)等]

フィールドセンターのHPなどを通じて、森林に関する情報を得ておくこと。

[その他(オフィスアワー等)]

学生教育研究災害傷害保険に各自必ず加入しておくこと。

実習開催時期により、成績の登録が前期に間に合わない場合があります。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。

上賀茂試験地・工場緑地での実習の交通費(各1000円程度)が必要です。

[主要授業科目(学部・学科名)]